みんなでつなぐ 憲法バトン
#私たちの推し条文

第５回

第13条

（個人の尊重と公共の福祉）

すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

自分が好きな憲法の条文を選んで『＃私たちの推し条文』について、自分の言葉で伝えていきます。いろんな角度で日本国憲法の深掘りをしましょう。



池側将司さん（堺市職労）

憲法について不勉強で恥ずかしいのですが、改めて憲法について学ぶ中で気付かされたことがあります。「公共の福祉」という言葉が持つ意味です。

公共の福祉＝「社会のため、全体のため」？

憲法が保障している基本的人権。じゃあ人権って？と問われてもパシッと答えを返せません。一言でいうと個人として尊重される権利だそうです。13条では、「～公共の福祉に反しない限り、～最大の尊重を必要とする。」と書かれています。ふむ、まぁ皆が自由に好き勝手なことをやったら困るのは分かるけど、昔からモヤモヤしていたのが「公共の福祉に反しない限り」って言葉。公共の福祉って「社会全体の利益」みたいに聞こえませんか？個人として尊重されるべきなのに、結局社会全体の方が大事なの？と思っていました。昔はそういう解釈だったそうですが、今は人権の調整原理と言われているそうです。

個人の人権を制限しうるのは個人の人権のみ

憲法では個人の尊重が一番とされ、個人の権利を制限できるのもまた別の個人の権利だけ。その権利同士が衝突した時、調整するための原理を「公共の福祉」と呼ぶそうです。これを知って少しすっきりすると同時に、どうも日本ってまだまだそうなってないなと感じました。さらに、政権は思いきり国のために個人の人権を制限しようとしている気がします。過去は全体主義から個人が抹殺され、戦争へと進みました。今は違うと思いたいです。（参考『伊藤真の憲法入門』（日本評論社））※『永田鉄山の総力戦』（川田稔著／文春新書）を読むとまた色々考えさせられます。

このシネマがえいが

「ナースコール」



病院の人員不足の実態をリアルに描く緊迫感あふれる社会派ドラマ

スイスの州立病院が舞台。一人の看護師の視点で、ある日の夜勤シフトを追った劇映画です。

ベテラン看護師のフロリアが病院に出勤すると、その夜は同僚一人が病欠で満床の病棟に看護師は二人だけ、その上看護学生の指導もしないといけない…。こうしていつも以上に過酷な勤務が始まりました。入院患者26人は様々なルーツをもち、それぞれに複雑な事情を抱えています。多言語が飛び交う病棟で、フロリアは種々の業務をこなしながら、不安や孤独に苛まれる患者や家族の要望、クレームに誠実に対応しますが、ひっきりなしにかかる電話や緊急ナースコールに追い立てられ、極限状態に追い込まれます。…

一瞬も気の抜けない緊張の92分間、いつしか観客はフロリアと一体化し、その緊迫感を自ら体験し、まるでサスペンスを見ているように一気に映画の中に引きこまれます。臨場感あふれる映像は医療現場の人員不足の実態をリアルに描きだし、私たちに問いかけます。フロリアを演じたのは、ドイツの実力派女優レオニー・ベネシュ。彼女は、撮影前に州立病院で研修を受け、実際の看護師に付いて医療機器の扱いや看護業務を習得したとのこと。完璧な所作と真に迫った演技が圧巻、一方で娘からの電話に束の間母親の顔ものぞかせます。スイスの女性監督ペトラ・フォルペは、看護師たちを称えるためにこの作品を作ったと語っており、ドイツ語の原題「ＨＥＬＤＥＮ」（ヒロイン）に監督の思いが込められています。２０２６年春に公開。

Culture Navi かるちゃーなび

作りませんか 給食の人気メニュー



鶏ひき肉のとろみスープ

貝塚市職労　瀬戸　真一さん



協力：現業評議会・給食部会

材料（４人分）

【具材】カリフラワー120ｇ、土生姜３g、にんじん60g、玉ねぎ60g、チンゲン菜40g、油（炒め用）少々、鶏ひき肉100g、水480cc、中華スープ５g
【調味料】薄口しょうゆ12g、酒５g、塩少々、こしょう少々、片栗粉（とろみ用）10g

作り方

①カリフラワーは小房に分ける。土生姜はすりおろす。にんじんは千切り。玉ねぎは薄切り。チンゲン菜は３㎝に切り、軸と葉に分ける。
②油を熱し、土生姜・ひき肉・にんじん・玉ねぎの順に入れて炒める。
③水・中華スープを加え沸騰させる。
④沸騰したらチンゲン菜の軸を入れ、調味料を加え味を調える。
⑤チンゲン菜の葉を入れ、最後に水溶き片栗粉でとろみをつけて仕上げる。

心に響くこのひとこと

強い者が勝つのではなく正しい者が勝つ、そんな組織でありたい
（池井戸潤『ブティック』より）

銀行という組織においては、顧客の利益よりも銀行の利益を優先する者が評価され出世し力をもつという。そんな銀行に辞表を出した主人公の言葉である。いま、自治体においては首長などによるパワーハラスメントが問題となったり、国会では数にものを言わせ少数派の意見をおしつぶして法案の採決が強行される事態を招いている。私たちの職場はどうだろうか。「住民の役に立ちたい」「よろこばれる仕事がしたい」という思いが実現する、そんな組織にしたい。

今月の記念日

10月10日 世界メンタルヘルスデー

メンタルヘルス（こころの健康）に関する意識を高め、偏見をなくし、正しい知識を普及することを目的に、1992年オランダに本部を置く非政府組織（NGO）の世界精神保健連盟（WFMH）が制定。その後、国連の世界保健機構（WHO）が協賛し、「世界メンタルヘルスデー」として認められました。この日を中心に世界各地でメンタルヘルスに関連する啓発イベントなどが実施されています。